令和４年度第１回兵庫県スポーツ推進審議会　議事録

１　期日・場所　　令和４年９月５日（月）10:30～12:00
兵庫県民会館　「亀」
〒650-0011　神戸市中央区下山手通４丁目16-3

２　出　席　者

(委員10名)　山口委員　長ヶ原委員　倉委員　吉矢委員
恒木委員　小林委員　三上委員　山根委員
陳委員　榎並委員

欠席：平野委員　鵤木委員　尾山委員　角南委員　石角委員

(幹事３名)　上田幹事（ユニバーサル推進課長）
北中幹事（体育保健課長）
田中幹事（スポーツ振興課長）

(陪席２名)　八瀬兵庫県スポーツ協会事務局長
織邊スポーツ振興課マラソン担当官

(教育委員会)　稲次教育次長

(事務局)　土井副課長　柏木主幹
榎木指導主事　蓬野指導主事

３　開会あいさつ　稲次教育次長

４　委員・幹事紹介　出席者名簿にて紹介

５　会長あいさつ　山口会長

６　前回議事録の報告　令和３年度第３回兵庫県スポーツ推進審議会の報告事項と審議事項の議事録について事務局より説明し、承認を受けた。

７　署名委員の指名　署名委員は、山根委員、榎並委員に決定

８　報　告　事　項

（１）第２期兵庫県スポーツ推進計画と令和４年度実施計画について
スポーツ振興課長が説明した。

（２）令和４年度主要事業について
① スポーツ振興課に関する主要事業について、スポーツ振興課長が説明した。
② 神戸マラソンについて、スポーツ振興課マラソン担当官が説明した。
③ 体育保健課に関する主要事業について、体育保健課長が説明した。
④ ユニバーサル推進課に関する主要事業について、ユニバーサル推進課長が説明した。

（３）令和４年度スポーツ振興団体に交付する補助金の状況について
スポーツ振興課副課長が説明した。

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

＜第２期兵庫県スポーツ推進計画と令和４年度実施計画について＞

【長ヶ原委員】

○ ユースと過去１年間のスポーツの観戦者の割合の２点について、調査を行うのか。また、毎年調査を行うのか。

【事務局】

○ 兵庫県の「兵庫のゆたかさ指標」の調査項目に入れて、数値を毎年検証していくことを考えている。今年度は９月に実施を予定している。

【山根委員】

○ 総括指標の「運動・スポーツが好きな子ども」の増加について、そもそも兵庫県は全国に比べると高い水準にある。それをさらに上げていくことは、大きな効果が期待できると感じている。また、運動部の加入率も全国平均よりも高い。

【山口会長】

○ もともと兵庫県は「運動・スポーツが好きな子ども」の割合は高い水準にあるが、体力テストの結果は、中学・高校ともに全国よりも低い。この総括指標は、兵庫県のオリジナルで、まずは子ども達に、運動やスポーツを好きになってもらい、増やすことが大切である。

【陳委員】

○ 「障害者スポーツの参画人口の拡大」に関して、神戸市の新しいスポーツ施設では、ユニバーサルデザイン等、参加しやすい環境となっている。県も参加しやすい環境づくりに配慮していかなければならないと思う。

【三上委員】

○ 東播磨地域においても、新しい障害者向けの施設はできないのが現状である。障害者スポーツに対しての理解も進んでいない現状もある。しかし、パラスポーツは地域で確実に体験希望が増えている。また、兵庫県障害者スポーツ協会主催のセミナーを県内 12 か所で県内のスポーツ推進委員を対象に開催することを決定されており、大変画期的な事業であり、今後行政との連携に期待したい。

【山口会長】

○ 兵庫県では、今回の推進計画策定にご助力いただいた増田委員が、兵庫県障害者スポーツ協会の理事長に就任し、他県と異なり県内の障害者スポーツ団体などのネットワークを構築している。95 年の震災の影響で、ハード整備が遅れているので各自治体で取り組んで欲しい。

【倉委員】

○ 「運動・スポーツが好きな子ども」の増加を図るという意味では、幼少期の活動の量や多様な動きがベースとなり、動くことが好きになると小学校でも運動を行い、中学校でも続け、それが体力向上につながる。この流れを把握しないといけない。

○ 保護者の意識が勝利至上主義になる傾向がある。現に柔道の小学生の個人戦の全国大会が廃止された。スキルや勝利に偏り子どもがスポーツを嫌いになることが起こっている。幼少期は身も心も未熟なので、小学生の低学年までは楽しくやるということに重きを置くことが求められるのではないかと考えている。

【小林委員】

○ スポーツを始めるきっかけは、トップ選手への憧れから始まる要因がある。多くの方に愛される選手を育てていくことが子どもたちのスポーツへの興味を広げていく１つの要因になるだと思う。また、保護者の問題について、経済的なサポートや日常の送迎など、保護者の理解なしでは競技を続けていくことは難しい。一方で、競技力が高いほど保護者との接点が強くなりコーチと齟齬が生じやすい。このことから、フィギュアでは、全国有望新人発掘合宿において、年に１回、保護者に対して、他競技のトップ選手の保護者を講師として招聘し、保護者のサポートの仕方や経験談を聞く機会を設けている。

【榎並委員】

○ 現在、中学校部活動の地域移行の問題があるが、中学校にその内容が全く入ってきていない。

ある学校では、子どもの数が減ると教師の数が減り、部活動が成り立たない状態である。指導者の減少が問題で、部活動指導員を増やすことが重要だと思う。

＜令和４年度の主要事業について＞

（１） スポーツ振興課

【山口会長】

○ 地域スポーツ活性化支援事業のコンソーシアムについて報告の中で４つ上げられていたが、具体的にどこの市町かお聞きしたい。

【事務局】

○ 現在、検討中で取りかかろうとしている市町は西脇市、相生市、新温泉町、丹波篠山市の４市町である。

【山口会長】

○ 事業の枠はまだあるので、もっと増えて欲しい。地域スポーツクラブがキーとなってくるとは思うが、法人格の取得や、市町がひとつにまとまるようなことを期待したい。

【恒木委員】

○ 姫路市に限らず、スポーツクラブを中心にコンソーシアムの問題は出ているが、姫路市には71のスポーツクラブがあり、なかなか足並みがそろわず、進めるのが難しい状況である。

【山口会長】

○ 自治体によっていろいろ違うが、県内で法人格を持っているのが播磨町と加古川市の２つしかない。これを増やしていくことが一番のポイントだと考える。これが、部活動の地域移行にも関連してくる。播磨町のようなモデルが情報として出てくると良い。

【事務局】

○ この４月からスタートした登録認証制度に、いくつかのクラブが申請し制度を活用して指導者の資格取得を積極的に取り組んでいる。こういった動きがコンソーシアムへのきっかけになるのではと期待している。

【吉矢委員】

○ 神戸マラソンの在り方検討委員会の設置で、ウイズコロナ・アフターコロナの視点からスポーツ観戦の在り方を考えていくことは非常にいいことだと思う。今後、実際にウイズコロナでどのように対応できたか検討し、今後のスポーツの在り方を考える必要がある。

【山口会長】

○ 神戸マラソンの、コロナ対策はどうなっているのか。

【神戸マラソン担当官】

○ メディカル協議会を設置し、消防局や医師会を中心に医療の逼迫状況を見据えた上で、基本的な対策をしている。また、ランナーに３回目のワクチン接種の推奨や、陰性証明を提示してもらうことで感染者を参加させないようにする等、スタッフの身を守る対策を講じている。

【長ヶ原委員】

○ 生涯スポーツのワールドマスターズゲームズが2027年に延期になったが、兵庫県でPRしていただけると盛り上がるので、引き続きお願いしたい。またプロモーションしていく期間が増えたと考え、スポーツの生涯化していく機会にもなる。

（２） 体育保健課

【山口会長】

○ 部活動の地域移行について、スポーツクラブの各競技への調査結果では、受け入れを前向きに考えているのはどれくらいか。

【北中課長】

○ 前向きが216競技で、可能であるとの回答と合わせて393競技になる。

【山口会長】

○ 前向きに考えているところが多いが、各スポーツクラブで受け入れるのか、１つの市の中で受け入れるのかという調査には至っていない。各市町の推進会議の設置状況について伺いたい。

【北中課長】
○ 名前はそれぞれ違うが、現在22の市町に既に設置されている。最終的にすべての市町に設置し、コーディネーターを県と市町に置くということになっているので、実際にどのように兼ね備えてマッチングするのか、また、マッチングするための情報源を効率的に伝えるための作業が必要だと考えている。

【陳委員】
○ 人口の少ない地域と神戸市や姫路市のように人口が多いところとでは抱える問題も様々である。部活動は、勝ち負けではなくて、社会生活を養っていくという部分もあるなか、果たして地域移行がなじむのは、なかなか難しいのではないかと思われる。

【北中課長】
○ 地域移行については出来るところから、移行していく。指導者についても学校の先生の兼職兼業という制度がある。今後は各市町と情報共有しながら実態調査を行い、いろいろなチャンネルを使って受け入れ団体や指導者の確保に努めていきたい。

【山口会長】
○ ３年後は出来るだけ早期に教員の負担を減らすという方向性は確定しているので、まず段階的に３年間で週末だけ行い、その後は地域スポーツクラブでという方向性はようやく見えてきた。

【吉矢委員】
○ 安全管理という面で、責任が地域のスポーツ団体や地域に移る。熱中症の問題などの安全対策も団体等が責任を負うということを前提に、団体の選択をする必要がある。

【北中課長】
○ 学校と受け入れ団体の両方とも、どのステージにおいても安全に留意し、教育活動としてやっている。学校教育、社会教育があるとすれば、両方とも教育観念を持った指導が、当然引き継がれるものと考えている。

【恒木委員】
○ 17年に話が出て、５年かかって今の状況である。姫路市のスポーツ協会の理事会でも話題になったが、中体連も何も聞かされていない状況である。このことに関してもっと早く説明をして欲しい。

【北中課長】
○ ６月６日に提言が出て、先週概算要求が出たばかりで、全国の教育委員会へもまだ通知がない状況である。ただ、この提言の内容すら広がっていないということは問題であり、県と市町の担当者が情報を共有できるよう取り組む。

（３） ユニバーサル推進課

【三上委員】
○ 実施される県主催の事業に関しては障害者に対する合理的配慮がなされている。しかし、地域事業は予算がなく手話通訳者や要約筆記者の方に来ていただくことが難しい状況である。もっと地域に密着した形で予算の方も今後見直していただきたい。

【上田課長】
○ 合理的配慮は、平成３年の法改正があったことで公的な機関には義務化されているが、民間の団体はまだ努力義務である。令和６年５月には義務化となるので、それに向けて我々も団体、企業等に対する普及、啓発が必要である。

9　閉会

【署名委員】

榎 孟 由 美　　山 根 尚